



キャンパス／京都府京都市、大阪府茨木市、滋賀県草津市 学生数／38,318人 建学の精神／自由と清新
 学部／法、産業社会、国際関係、文、デザイン・アート(2026年4月設置構想中)、経営、政策科学、総合心理、グローバル教養、映像、情報理工、経済、スポーツ健康科学、食マネジメント、理工、生命科学、薬
 大学院／法学、社会学、国際関係、文学、デザイン・アート学(2026年4月設置構想中)、経済学、スポーツ健康科学、理工学、生命科学、薬学、食マネジメント、経営学、政策科学、人間科学、映像、情報理工学、言語教育情報、先端総合学術、テクノロジー・マネジメント
 THE世界大学ランキング2025／1501+位、同日本大学ランキング2025／28位、同インパクトランキング2025／201-300位
 経営／学校法人立命館 他の設置校／立命館アジア太平洋大学、立命館中学校・高等学校、立命館宇治中学校・高等学校、立命館慶祥中学校・高等学校、立命館守山中学校・高等学校、立命館小学校

CASE STUDY

学習者の成長を語る共通言語として 学園全体のコンピテンシーを策定

立命館大学

学習者の成長を促すため、学園共通のコンピテンシー・フレームワークを策定した立命館大学。この取り組みの狙いと目的について副学長に聞く。



副学長 中本 大

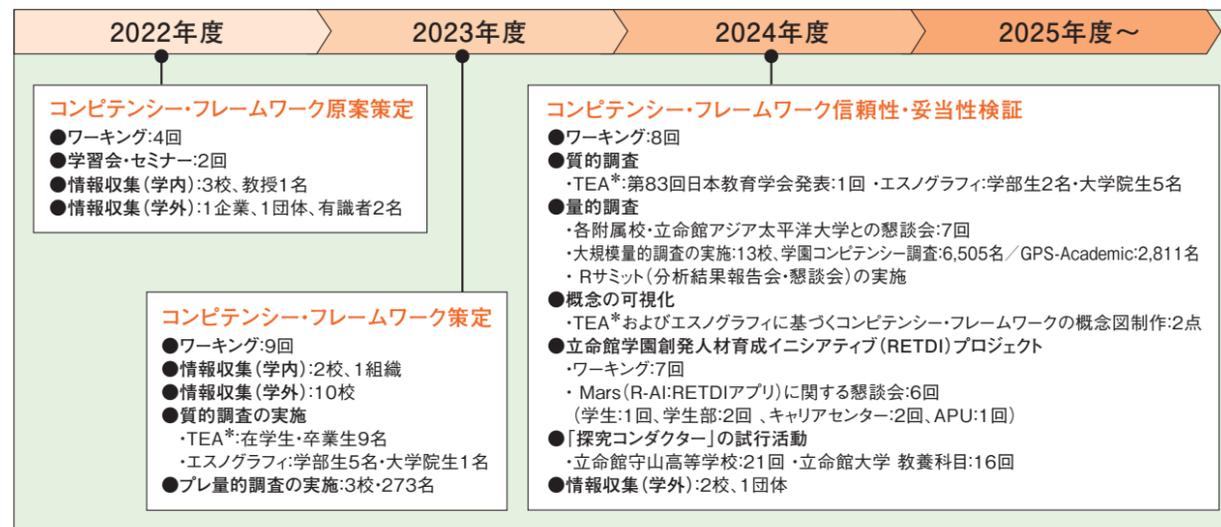
なかもと だい ●1994年大阪大学大学院文学研究科国文学専修博士後期課程単位取得退学。1995年大阪大学文学部助手。1998年立命館大学文学部助教授。2008年同教授。2021年立命館大学学部長。2025年より現職。

立命館としての学風と教育の質を示していく

急激に少子化が進み、大学は苦しい状況に直面しています。まして小学校は、より厳しい状況に置かれています。立命館学園は小学校から大学院までを擁する大きな組織ですが、持続的な発展のためには、学園全体としての特色を出すことが不可欠です。各学校現場で特長ある教育が実践されている一方、その成果や特色について、学校種を超えて語るための共通言語が存在しませんでした。そこで、学園の全教職員が「どのような力を育もうとしているのか」を考え、その質を示すための言語として、「立命館学園コンピテンシー」を策定することにしたのです。

まず、2022年度にフレームワークを策定するためのワーキングを設置。学内外から情報を集め

コンピテンシー・フレームワーク策定ワーキング(全21回) 取り組みの流れ



*複線経路等至性アプローチ。時間経過とともに変化する人間の発達や人生の過程を、質的に探究するための研究方法。

コア・コンピテンシー:「立命(めい)を立てる」自分自身が何者であるかを知るために、学び続けること

コア	コンピテンシー	説明
R	立ち直る力 (Resilience)	困ったことや失敗したことから学び立ち直る
I	自発性 (Initiative)	他の人に言われなくとも、自分で自分の目標を立てて取り組む
T	チームワーク (Teamwork)	目的を達成するために他の人と協力する
S	自己効力感 (Self-efficacy)	自分の能力を信じ、自分ならできると感じている
U	理解力 (Understanding)	論理的に物事をとらえ、考えることができる
M	マルチタスキング (Multitasking)	順番ややり方を工夫して複数の課題をうまく進める
E	共感力 (Empathy)	他の人の気持ちを想像して、その人に寄り添う
I	変革力 (Innovation)	新しい考え方で、物事に変化を生み出す



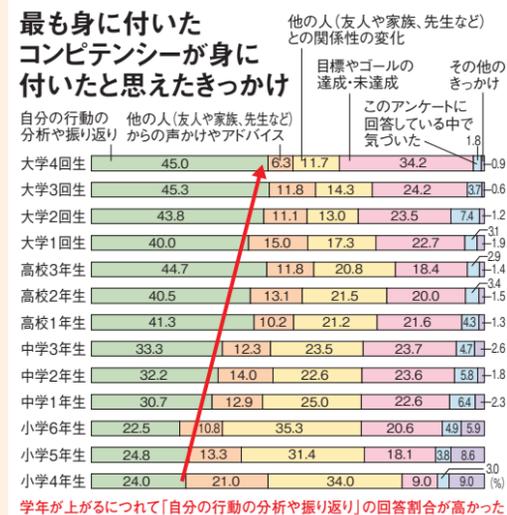
立命館学園の2大学、4高等学校、4中学校、1小学校の教育目標等を全て抽出したリストの一部。赤字で記されているのは今回策定したコンピテンシーに関わる箇所。

注目

全ての学校種の教職員が連携し、学園全体としてめざすべき教育を見つめ直す

コンピテンシーの策定は、一貫教育部と教学部のメンバーが中心となったワーキンググループに、各学校の教職員が参加して進められた。まず着手したのは、小・中・高・大・院における人材育成目標に関わるあらゆる文言を全てスプレッドシートに書き出すこと。これをベースに議論を進め、学園として大切にしている部分を整理・統合した。2年間をかけて策定したコンピテンシーの信頼性・妥当性を検証するため、大規模調査も実施。外部アセスメント*1を活用した調査では、学年が上がるにつれて振り返りの機会がコンピテンシーの成長に大きく影響していくことが確認された。

ワーキングメンバーの西浦明倫氏は、「特に大学における探究的な学びでは、『附属校出身の学生は、問いを自分事として捉える姿勢が自然に備わっている』と言われることが多い。今回のコンピテンシーの分析によって、その要因が明らかになる可能性がある。この分析結果は、立命館学園として今後力を注ぐべき教育の方向性を示すだけでなく、各学校が有する特色をさらに鮮明にするだろう」と期待する。



*1 GPS-Academic. 汎用的能力である「問題を解決する力」を可視化する。ベネッセキャリアが提供するアセスメント。

自己省察のためのプラットフォームを構築

このコンピテンシーは、今後、

学習者にとって「授業の中で立ち直る力が伸びた」「課外活動でチームワークが身についた」といったように、自己省察の入り口となるよう設計しています。なお、児童・生徒・学生の評価には用いませぬ。なぜなら、コンピテンシーのリーダーチャートは正八角形にすることを目指すのではなく、学習者の個性ある成長が可視化され、それによる自己省察によって、学習者が生涯にわたって学び続けることを期待しているからです。そのため、新たなデータプラットフォームを構築中です。これは、学習者のコンピテンシーに関する定量データとエピソードを蓄積するもので、将来的には研究室選びやキャリア支援に関するアドバイザーを提供する予定です。

学園の各校が建学の精神や教育理念の下、自然に持ち合わせている学風、そしてそれによって醸成される人間性を表現したのが本コンピテンシーです。いまだに偏差値が進学先を選ぶ際の主な基準となつていますが、このコンピテンシーは、偏差値だけでは測れない新しい学力観を示すもの。これを通して教育の質を社会に示し、「立命館で成長したい」という学習者から選ばれ続ける学園でありたいと考えています。

取材・文／本間学 撮影／根津菜美